

本論文は

世界経済評論 2019年 1/2月号

(2019年 1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

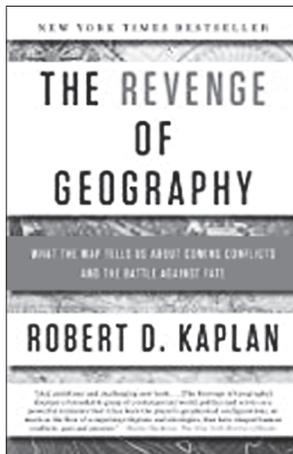
お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

The Revenge of Geography: What the Map Tells Us About Coming Conflicts and the Battle Against Fate

東京大学名誉教授 猪口 孝



〔著者〕 Robert D. Kaplan

〔発行〕 New York: Random House, 2012

〔判型〕 紙の本の長さ 448 ページ

〔定価〕 Kindle 版 1500 円

マーガレット・サッチャーは明快で勢いのあふれる表現に長けた政治家である。欧州は「歴史」によって形造られたが、米国は「哲学」によって形造られた——もそのひとつである。確かに、2000年以上の歴史を超える欧州は、公的文書の作成・保存利用で群を抜いている。米国は200年以上の歴史を誇り、公的文書の管理も世界に冠たるものがあるが、やはり特筆に値するのは、名君か暴君かといわれる指導者ではないか。ジョージ・ワシントン、トマス・ジェファソン、アンドリュー・ジャクソン、エイブラハム・リンカーン、セオドア・ルーズベルト、ウッドロウ・ウィルソン、フランクリン・ルーズベルト、ハリー・トルーマン、ジョン・ケネディ、リンドン・ジョンソン、ジョージ・F・ブッシュ（父）、バラク・オバマ、ドナルド・トランプ。サッチャー首相に代表される欧米人の政治家、学者、インテリなどは、物事を決める際の人間の力を少し多めに見る人が多いのではない。自分の果たす役割を大言壮語する必要があるというためもある。

欧州や米国はともかく、アジアは何によって形造られているのかと自問自答してみると、歴史や哲学では物足りない。やはり、地理がなければ理解は半端にもならない。地理や気象、宇宙、自我との関係を鋭く見ることなしに、アジアだけでなく世界はわかりにくい。

ロバート・D・カプランの『地理の復讐』は、21世紀第一四半世紀に地球転変の激しくなっているこの時に、人間力過大評価ではなく、地理（山・河川、砂漠、平原、森林、空気、氷原、気温、湿度、雨量、地下水、交通通信、インフラ、エネルギー資源、可耕地、官僚制組織など）がどのようなミックスで現れているかを見なければいけないという。

著者は子供時代にもトラック運転手の父親に連れられて全米中を見て回っており、全米のどこをとっても土地を見る眼力が素晴らしい。大人になってからは、海兵隊の第一遠征旅団とともに、圧倒的な武器、圧倒的な食料、圧倒的な兵士戦闘力の大海原を越えた移動を理解してきた。『地理の復讐』は、21世紀の世界中の地理を米国の戦略から見て、地理の重要性を説く。地理が運命というような地理決定論ではなく、どうしようもない地理の与件をした時、人間の頭と手足はどのような特徴を持つか、それを相手にした時、米国の頭や手足はどのように使うべきかを懇切に説く。

第1部は地政学の系譜が上記の観点から詳しく吟味され、第2部は欧州、ロシア、中国、インド、イラン、オスマントルコと、地理と歴史を適切に交えた大世界史である。

第3部は、メキシコと米国の大戦略で終わる。

2017年に出版された『ロッキー山脈を獲得して』(Earning the Rockies: How Geography Shapes America's Role in the World, Random House)は、米国の地政学の条件とその結果たる米国大戦略を、米国の地理を詳しく踏まえて歴史的に明快に培ったものである。『地理の復讐』とともに必読である。権力の行使は脆弱性を内にかかえるという大原則を踏まえた上で、米国の戦略について耳障りをよくしようなどと余計なことを気にせずに書いたものである。

ペーパーバックは18米ドルである。日本語版が欲しいなどと呑気なことは言わず、2000円ほどで手に入る英語版で読めばよい。

(いのぐち たかし)